

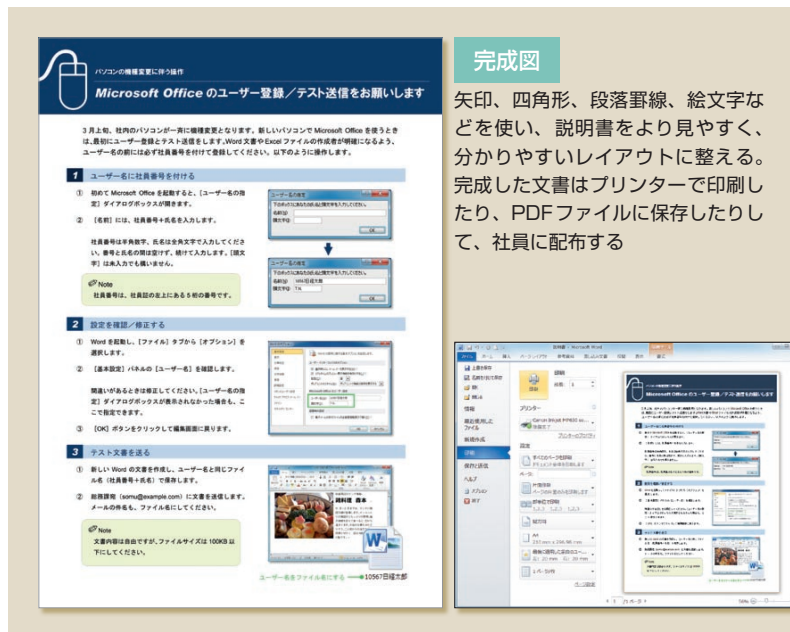
作って覚える Word 2007/2010

説明書

Word 2007/2010の操作手順を解説します

伊佐 恵子 テクニカルライター

第6回 仕上げのワザで文書をグレードアップする



図形で操作を分かりやすくする

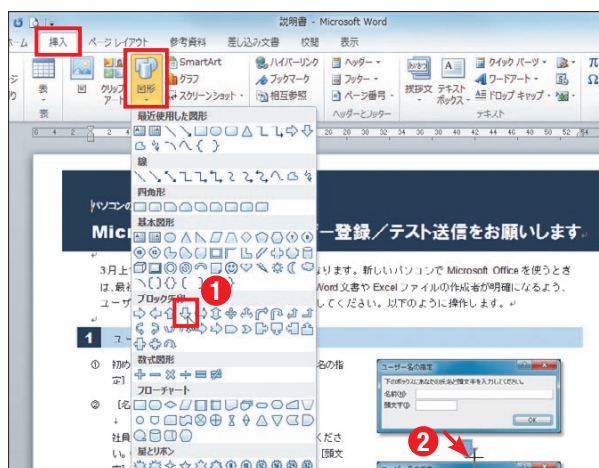


図1 「挿入」タブの「図形」から「下矢印」を選択する(①)。対角にドラッグして、矢印を描く(②)

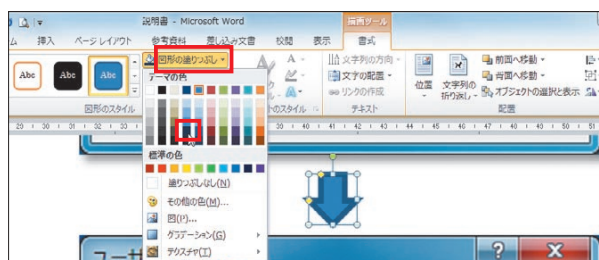


図2 描画ツール「書式」タブの「図形の塗りつぶし」から「濃い青、テキスト2、黒+基本色25%」を選択する(画面の表示倍率は適宜調整しよう。サイズや形状を変えるときは、拡大した方が作業しやすい)

画面ショットに矢印や枠線を付けると、説明はより親切になる。Wordの図形機能を使えば、描画は簡単。操作方法を紹介しよう。今回はさらに、絵文字や罫線でタイトルを装飾する。堅い印象になりがちな説明書を、取っ付きやすい文書に仕上げよう。

前回までの作業で、説明書の文章と画面ショットは全て入力できた。今回は、内容をより明確に伝えるための工夫をしよう。まずは矢印と四角形を使って、操作の流れや、ダイアログボックス内の設定場所をハッキリさせる。

矢印と四角形を補足説明に使う

では、作業を始めよう。説明書の最初の手順では、操作前と操作後の画面を縦に並べている。この間に矢印を描くため、まず「挿入」タブの「図形」から「下矢印」を選択する(図1の①)。この「下矢印」は、幅のあるブロック矢印だ。描くときは、矢印の左上から右下へ対角にドラッグする(図1の②)。

矢印の色は、描画ツール「書式」タブで変更できる。ここでは「図形の塗りつぶし」をクリックし、パレットから「濃い青、テキスト2、黒+基本色25%」を選択した(図2)。周囲の線は不要なので、「図形の枠線」をクリックし、「線なし」を選択する(図3)。画面の表示倍率は適宜調整しよう。サイズや形状を変えるときは、拡大した方が作業しやすい。

サイズは周囲のハンドルをドラッグして

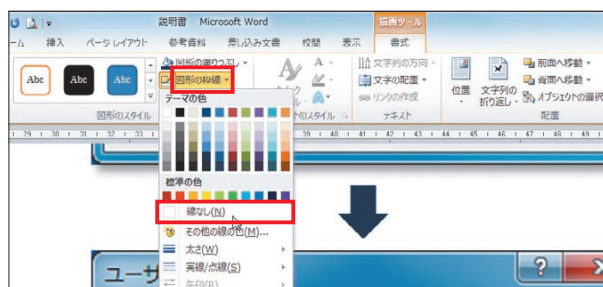


図3 「図形の枠線」から「線なし」を選択し、周囲の線を消す



図4 周囲のハンドルをドラッグしてサイズを調節する。ここでは右辺の□を左にドラッグして幅を狭くした

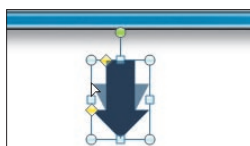


図5 矢印の形状は黄色い◆で変更する。ここでは左下の◆を上へドラッグして矢の部分をも大きくした



図6 ドラッグや矢印キーで位置を調節する

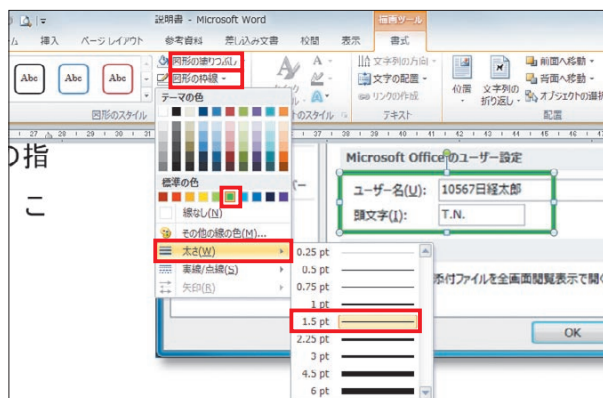


図7 同様に四角形を描き、説明部分を囲む。中の色は「塗りつぶしなし」に変更、線の色は「緑」、太さは「1.5pt」にする

変更する(図4)。また矢印の形状は、黄色い◆で変更できる。ここでは左下の◆を上へドラッグして矢の部分をも大きくした(図5)。サイズと形状が決まったら、ドラッグで位置を調節する(図6)。細かく動かしたい場合は、矢印キーを利用しよう。

次に「挿入」タブの「図形」から□(正方形/長方形)を選び、2番目の手順のダイアログボックスに四角形を描く。設定場所の「ユーザー名」と「頭文字」を囲むように描き、線の色や太さを変更しよう(図7)。内部は透明にするので、「図形の塗りつぶし」から「塗りつぶしなし」を選ぶ。画面ショットの表示に合わせて、四角形のサイズと位置も調節しよう。

タイトル全体を右にずらす

続いて、タイトル部分の装飾に取りかろう。この文書はパソコン操作の説明書なので、タイトルにマウスの絵を表示する。まず準備として、タイトルをインデントで字下げし、左側にスペースを作る。

インデントの設定方法はいくつかあるが、今回は「ページレイアウト」タブで行う。タイトルの2行を選択し、「左インデント」を「3字」、「右インデント」を「-4字」に設定しよう(図8)。これでタイトル全体が右に3文字分移動する。

なお、「右インデント」を「-4字」にしたのは、タイトルを1行に収めるためだ。「左インデント」で字下げだけすると、タイトルが2行に折り返されてしまう。そこで「右インデント」にマイナス値を設定し、行末の位置を右にずらした。計算上は「-3字」でもよいのだが、余裕を持たせるため左インデントより1文字分多く設定した。

Wordではこのように、余白部分に文字

タイトルにメリハリを付ける



図8 タイトルの2行を選択する。「ページレイアウト」タブの「左インデント」を「3字」、「右インデント」を「-4字」に設定しよう(図8)。これでタイトル全体が右に3文字分移動する。

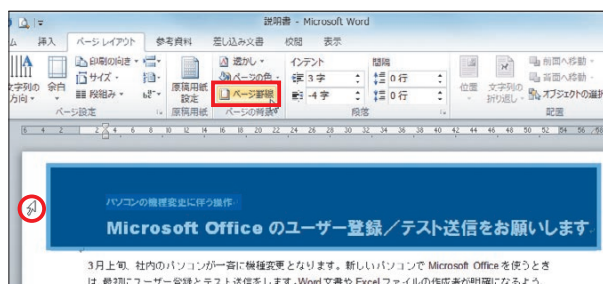


図9 タイトルの1行目を選択し、「ページ野線」ボタンをクリックする

をはみ出させることができる。ただし、用紙の端ギリギリになると、印刷時に切れる可能性もあるので注意したい。設定しているプリンターで印刷されるか不安なときは、印刷プレビュー画面で確認しよう。

罫線でタイトルを引き締める

次に、タイトルの行間に罫線を引く。まずタイトルの1行目を左端のクリックで選択し、「ページ罫線」ボタンをクリックする(図9)。

ダイアログボックスでは「ページ罫線」タブが表示されるので、「罫線」タブに切り替えよう。その後「色」に「白」を選び、「プレビュー」のボタンで罫線の位置を指定する(図10)。ここでは「下」をクリックした。線の色が白なので、プレビューの線は見えないが、ボタンの色が変わっていればOKだ。

文字と罫線の間隔を指定するため、続いて「オプション」ボタンをクリックする。ダイアログボックスが表示されたら「下」を「1pt」から「6pt」に変更しよう(図11)。これで文字と罫線の間に6ポイントの空きができる。

編集画面に戻り、白い罫線が引かれたのを確認しよう。間隔を6ポイントにしたので、罫線は1行目にくっつきすぎず、2行目との間にバランス良く表示された(図12)。

タイトルの背面に配置した四角形は、大きくしておこう。まず、3行目の空白行にカーソルを移動して[Enter]キーを押し、行を追加する(図12)。下側にスペースができたところで、四角形を選択し、各辺のハンドルをドラッグしてサイズを調節する(図13)。上と左右は、用紙から少しはみ出すくらいで構わない。

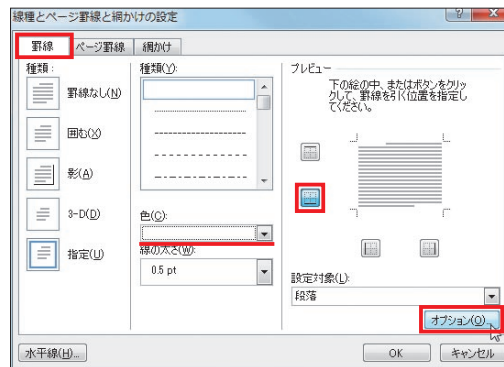


図10 「罫線」タブを開く。「色」に「白」を選び、「プレビュー」のボタンで罫線の位置を指定する。ここでは「下」ボタンをクリックした。「オプション」ボタンをクリックする

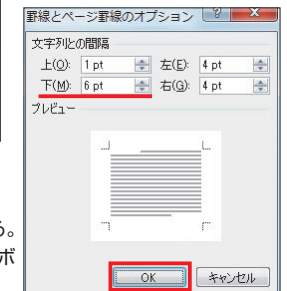


図12 1行目の下に白い罫線が引かれた。3行目の空白行にカーソルを移動し、[Enter]キーで空白行を追加する

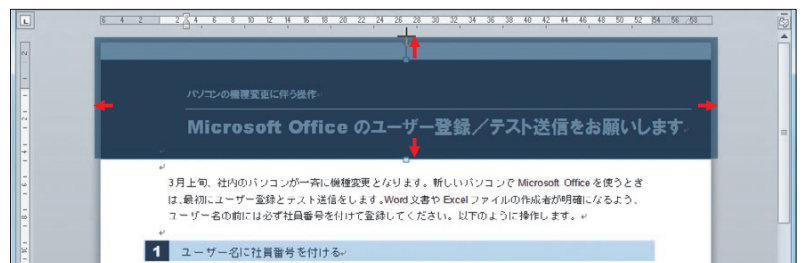


図13 タイトル背面の四角形を大きくする。上と左右は用紙から少しはみ出すくらいにする

絵文字をイメージ作りに利用する

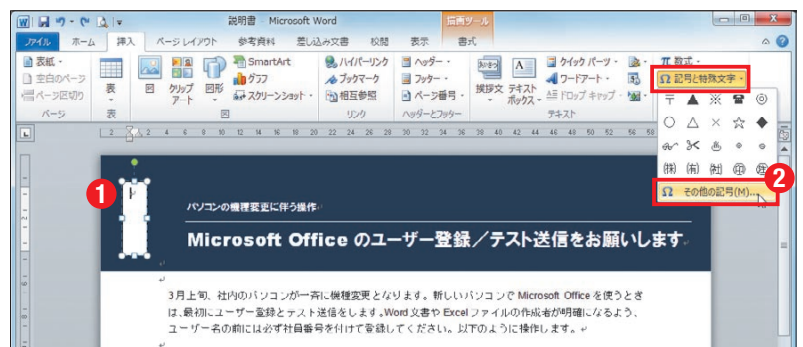


図14 新しいテキストボックスを作る。ここでは枠をクリックで作成した。「挿入」タブの「記号と特殊文字」から「その他の記号」を選択する

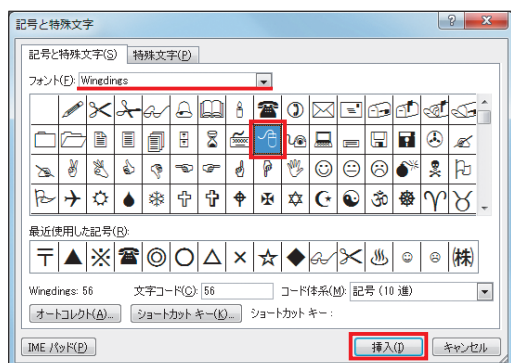


図15 「フォント」に絵文字専用の「Wingdings」を指定する。マウスの絵文字を選択して「挿入」ボタンをクリックする

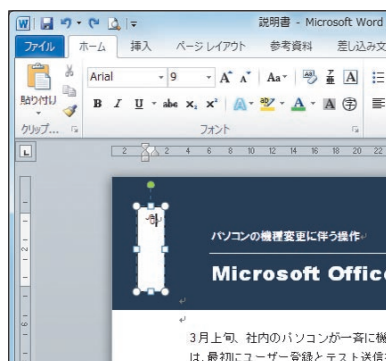


図16 テキストボックスに絵文字が入力された。「記号と特殊文字」ダイアログボックスは閉じる

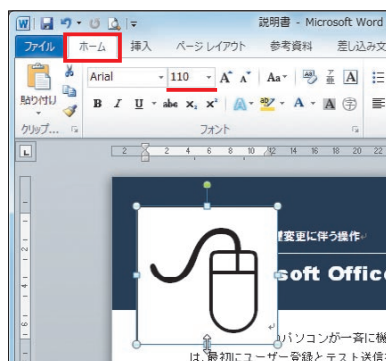


図17 絵文字を選択してサイズを110ポイントに変更する。枠のサイズは、文字サイズに合わせて変更する



図18 描画ツール「書式」タブの「図形の塗りつぶし」ボタンをクリック(①)。続いて「図形の枠線」から「線なし」を選択する(②)

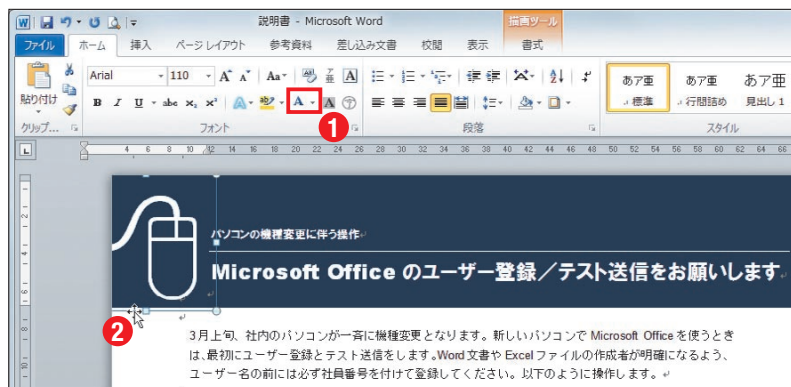



図19 絵文字を選択して文字色を「白」に変更する(①)。枠線部分をドラッグしてテキストボックスを配置する(②)。絵文字の左端が用紙からはみ出しても構わない



これで文書の左上に、絵を表示するスペースができた。ここにテキストボックスを作成し、マウスの絵文字を入力していく。

絵文字を透明の枠で配置

では、「挿入」タブの「図形」から  (テキストボックス) を選び、新しいテキストボックスを作ろう。ここでは枠をクリックで作成した(図14の①)。

続いて「挿入」タブの「記号と特殊文字」から「その他の記号」を選択する(図14の②)。ダイアログボックスが表示されたら、「フォント」に絵文字専用の「Wingdings」を指定。マウスの絵文字を選択して「挿入」ボタンをクリックする(図15)。これでテキストボックスにマウスの絵文字が入力される(図16)。

後は、文字と枠のスタイルを整えるだけ。まず絵文字のサイズを110ポイントに変更する(図17)。「挿入」タブの「フォントサイズ」ボックスにポイント数を直接入力し、[Enter] キーで確定すればよい。枠のサイズは、文字サイズに合わせて調節する。

次に、描画ツール「書式」タブの  (図形の塗りつぶし) をクリックする(図18の①)。 には四角形に設定した「塗りつぶしなし」がセットされているため、枠内は透明になる(Word 2007ではテキストボックスツール「書式」タブで操作)。線も不要なので、「図形の枠線」から「線なし」を選択する(図18の②)。

青い背景に映えるよう、絵文字の色は「白」に変更しよう(図19の①)。最後に枠線部分をドラッグして、テキストボックスを配置する(図19の②)。絵文字はこのように、イラスト代わりにも利用できる。以上で説明書は完成した。

